

* 東京天文台クラブ「塔影」をデジタルアーカイブ

国立天文台の前身が東京天文台だったことは多くの方がご存知だが、東京天文台時代からご在籍の方はだんだんと少なくなってきた。東京天文台時代には親睦を目的とした「東京天文台クラブ」というものがあり、機関誌として「プラターヌ」という新聞のようなものを出していたことは、アーカイブ室新聞番外編第 3 号で紹介した。東京天文台クラブにはたくさんの「部」があった。野球部もその一つであった。絵を描く「どんぐり」というクラブもあったし、「囲碁」、「将棋」などいろいろあった。その中に同人誌「塔影」を発行するグループがあった。筆者の知る限り、1～4 号まで発行された。写真 1 にその 4 号を示す。



写真 1 昭和 25 年 (1950 年) 12 月に 1 号発行の塔影

筆者が東京天文台に入った昭和 36 年(1961 年)にはすでにこの「塔影」の発行は無かったように思う。筆者は岡山天体物理観測所に入り、そこで「コスモス」という親睦誌を発行したが、間もなく三鷹に転勤になり、筆者の親睦誌を引き継いでくれる人もいなかったのが沙汰止みになってしまった。ワシントンの海軍天文台にいた石田五郎氏に原稿を依頼したり、清水実氏から光学実験の調整の際、高さ調整に理科年表を使った話など、けっこう面白いものだったと自負している。筆者が東京に転勤して最初に手にしたプラターヌが 22 号だったから、プラターヌは「塔影」を引き継いだものだったのかもしれない。この当たりの事をご記憶の方を探そうと思う。「塔影」の編集者と発行年月などは写真 2 のようであった。

											「塔影」
	宮	羽	檀	竹	高	益	川	小	大	伊	編集委員
	沢	原	内	瀬	島	端	野	沢	藤		
*印は本号責任者	正	澄	端	文	孝	重	清	さ			
	英	子	毅	天	郎	子	威	実	輝	子	
					*			*			

発行者 東京都三鷹市大沢 東京天文台倶楽部	印刷者 新宿区曙町二番地 栄誠社 電 五五(2)五八一四	昭和十五年十月八日印刷 昭和二十五年十月十日発行
-----------------------------	---------------------------------------	-----------------------------

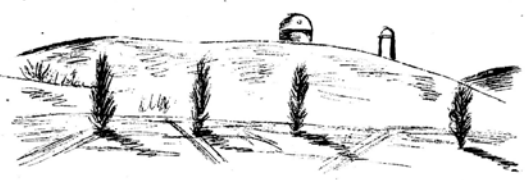
写真 2 塔影の編集者など

この「塔影」4 冊は、2008 年 10 月 20 日に亡くなられた清水実氏のお悔やみに行き、この編集者の一人であった清水夫人(羽原澄子氏)からお借りしたものである。

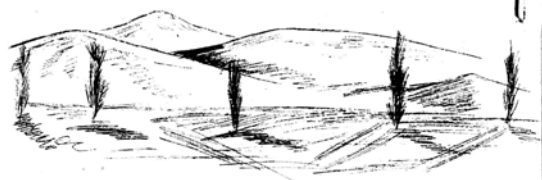
次に「塔影」創刊号の「目次」をお目にかけるが、最初に当時の台長、萩原雄祐が「「詩」コロナ観測所開設に寄す」と寄稿している。ペンネームを使っている人もおり、どなたか定かでない御仁もいるが、高瀬文志郎、大沢清輝、石田五郎、竹内端夫、中野三郎などそうそうたる人々が稿を寄せている。また懐かしい羽原澄子、小野実などの名前もあるが、存じ上げない方も多い。

「塔影」創刊号目次

（詩）コロナ観劇院開設に際す
 探 究 的 人 生 桑 九七
 科 学 と 道 徳 伊集造彌子 九
 富 沢 實 治 の 文 学 高野の志郎 一四
 佐 塚 隆 一 探 の 日 記 よ り 石田五郎 二二
 MON-AVENIR 羽原益子 二八
 香い香紙のイトから 町内晴夫 三〇
 天 文 寺 隆 恩 大沢清輝 三六
 自 然 の 中 に 二日市孝子 三八
 題 詠 三浦正夫 四〇
 私 は 山 を 受 け 三浦正夫 四二
 夕 日 の も と に 長瀬子 四七



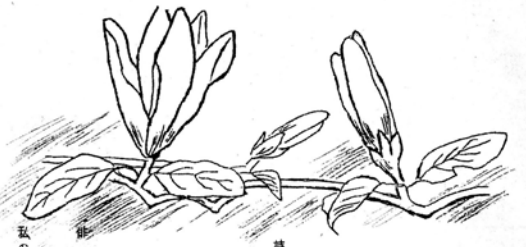
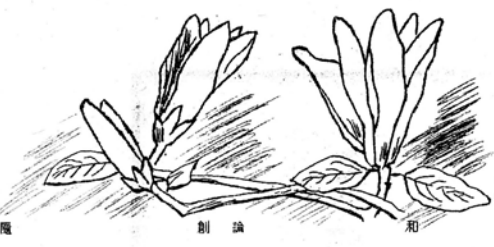
巷 の 五 線 橋 大のり 四八
 コ ン ト 中野三郎 五一
 私 が 天 文 台 へ 入 っ た 頃 の 佐 塚 隆 一 五二
 高 野 隆 の ミラット・タイム に 対 し 佐 塚 隆 一 五三
 心 と 家 と 佐 塚 隆 一 五五
 詩 以 前 の 感 傷 佐 塚 隆 一 五九
 歌 詠 与志郎 六〇
 秋 十 月 与志郎 六二
 コロナ観劇院の月 与志郎 六三
 うらたて 与志郎 六四
 三 輪 車 与志郎 六五
 三 輪 車 与志郎 六六
 三 輪 車 与志郎 六七
 三 輪 車 与志郎 六八
 三 輪 車 与志郎 六九
 三 輪 車 与志郎 七〇
 三 輪 車 与志郎 七一
 三 輪 車 与志郎 七二
 三 輪 車 与志郎 七三
 三 輪 車 与志郎 七四
 三 輪 車 与志郎 七五
 三 輪 車 与志郎 七六
 三 輪 車 与志郎 七七
 三 輪 車 与志郎 七八
 三 輪 車 与志郎 七九
 三 輪 車 与志郎 八〇
 三 輪 車 与志郎 八一
 三 輪 車 与志郎 八二
 三 輪 車 与志郎 八三
 三 輪 車 与志郎 八四
 三 輪 車 与志郎 八五
 三 輪 車 与志郎 八六
 三 輪 車 与志郎 八七
 三 輪 車 与志郎 八八
 三 輪 車 与志郎 八九
 三 輪 車 与志郎 九〇
 三 輪 車 与志郎 九一
 三 輪 車 与志郎 九二
 三 輪 車 与志郎 九三
 三 輪 車 与志郎 九四
 三 輪 車 与志郎 九五
 三 輪 車 与志郎 九六
 三 輪 車 与志郎 九七
 三 輪 車 与志郎 九八
 三 輪 車 与志郎 九九
 三 輪 車 与志郎 一〇〇



次に2号の目次を載せる。

目次 塔影 第二号

あ ぶ 香 が 賦 ひ 等 四
 来 殿 嶺 に て 神 五
 香 煙 子 末 川 六
 香 煙 子 末 井 七
 香 煙 子 末 川 八
 香 煙 子 末 井 九
 香 煙 子 末 川 一〇
 香 煙 子 末 井 一一
 香 煙 子 末 川 一二
 香 煙 子 末 井 一三
 香 煙 子 末 川 一四
 香 煙 子 末 井 一五
 香 煙 子 末 川 一六
 香 煙 子 末 井 一七
 香 煙 子 末 川 一八
 香 煙 子 末 井 一九
 香 煙 子 末 川 二〇
 香 煙 子 末 井 二一
 香 煙 子 末 川 二二
 香 煙 子 末 井 二三
 香 煙 子 末 川 二四
 香 煙 子 末 井 二五
 香 煙 子 末 川 二六
 香 煙 子 末 井 二七
 香 煙 子 末 川 二八
 香 煙 子 末 井 二九
 香 煙 子 末 川 三〇
 香 煙 子 末 井 三一
 香 煙 子 末 川 三二
 香 煙 子 末 井 三三
 香 煙 子 末 川 三四
 香 煙 子 末 井 三五
 香 煙 子 末 川 三六
 香 煙 子 末 井 三七
 香 煙 子 末 川 三八
 香 煙 子 末 井 三九
 香 煙 子 末 川 四〇
 香 煙 子 末 井 四一
 香 煙 子 末 川 四二
 香 煙 子 末 井 四三
 香 煙 子 末 川 四四
 香 煙 子 末 井 四五
 香 煙 子 末 川 四六
 香 煙 子 末 井 四七
 香 煙 子 末 川 四八
 香 煙 子 末 井 四九
 香 煙 子 末 川 五〇
 香 煙 子 末 井 五一
 香 煙 子 末 川 五二
 香 煙 子 末 井 五三
 香 煙 子 末 川 五四
 香 煙 子 末 井 五五
 香 煙 子 末 川 五六
 香 煙 子 末 井 五七
 香 煙 子 末 川 五八
 香 煙 子 末 井 五九
 香 煙 子 末 川 六〇
 香 煙 子 末 井 六一
 香 煙 子 末 川 六二
 香 煙 子 末 井 六三
 香 煙 子 末 川 六四
 香 煙 子 末 井 六五
 香 煙 子 末 川 六六
 香 煙 子 末 井 六七
 香 煙 子 末 川 六八
 香 煙 子 末 井 六九
 香 煙 子 末 川 七〇
 香 煙 子 末 井 七一
 香 煙 子 末 川 七二
 香 煙 子 末 井 七三
 香 煙 子 末 川 七四
 香 煙 子 末 井 七五
 香 煙 子 末 川 七六
 香 煙 子 末 井 七七
 香 煙 子 末 川 七八
 香 煙 子 末 井 七九
 香 煙 子 末 川 八〇
 香 煙 子 末 井 八一
 香 煙 子 末 川 八二
 香 煙 子 末 井 八三
 香 煙 子 末 川 八四
 香 煙 子 末 井 八五
 香 煙 子 末 川 八六
 香 煙 子 末 井 八七
 香 煙 子 末 川 八八
 香 煙 子 末 井 八九
 香 煙 子 末 川 九〇
 香 煙 子 末 井 九一
 香 煙 子 末 川 九二
 香 煙 子 末 井 九三
 香 煙 子 末 川 九四
 香 煙 子 末 井 九五
 香 煙 子 末 川 九六
 香 煙 子 末 井 九七
 香 煙 子 末 川 九八
 香 煙 子 末 井 九九
 香 煙 子 末 川 一〇〇



園 淑 数 友 調 放 狂 清志銀行協会 六四
 十 一 月 の 日 記 よ り 大 崎 晶 子 六五
 春 日 の 遊 び 大沢の房菜木 六七
 四 季 の 流 れ に 聖 七
 世 が 異 變 の 二 應 田 中 幸 明 七二
 香 煙 子 末 二日市 善美子 八九
 FENMONSAGAKU OMIDDE Fenmon's A 九三
 北 川 に て 大 九四
 北 川 に て 大 九五
 北 川 に て 大 九六
 北 川 に て 大 九七
 北 川 に て 大 九八
 北 川 に て 大 九九
 北 川 に て 大 一〇〇
 北 川 に て 大 一〇一
 北 川 に て 大 一〇二
 北 川 に て 大 一〇三
 北 川 に て 大 一〇四
 北 川 に て 大 一〇五
 北 川 に て 大 一〇六
 北 川 に て 大 一〇七
 北 川 に て 大 一〇八
 北 川 に て 大 一〇九
 北 川 に て 大 一一〇
 北 川 に て 大 一一一
 北 川 に て 大 一一二
 北 川 に て 大 一一三
 北 川 に て 大 一一四
 北 川 に て 大 一一五
 北 川 に て 大 一一六
 北 川 に て 大 一一七
 北 川 に て 大 一一八
 北 川 に て 大 一一九
 北 川 に て 大 一二〇
 北 川 に て 大 一二一
 北 川 に て 大 一二二
 北 川 に て 大 一二三
 北 川 に て 大 一二四
 北 川 に て 大 一二五
 北 川 に て 大 一二六
 北 川 に て 大 一二七
 北 川 に て 大 一二八
 北 川 に て 大 一二九
 北 川 に て 大 一三〇
 北 川 に て 大 一三一
 北 川 に て 大 一三二
 北 川 に て 大 一三三
 北 川 に て 大 一三四
 北 川 に て 大 一三五
 北 川 に て 大 一三六
 北 川 に て 大 一三七
 北 川 に て 大 一三八
 北 川 に て 大 一三九
 北 川 に て 大 一四〇
 北 川 に て 大 一四一
 北 川 に て 大 一四二
 北 川 に て 大 一四三
 北 川 に て 大 一四四
 北 川 に て 大 一四五
 北 川 に て 大 一四六
 北 川 に て 大 一四七
 北 川 に て 大 一四八
 北 川 に て 大 一四九
 北 川 に て 大 一五〇
 北 川 に て 大 一五一
 北 川 に て 大 一五二
 北 川 に て 大 一五三
 北 川 に て 大 一五四
 北 川 に て 大 一五五
 北 川 に て 大 一五六
 北 川 に て 大 一五七
 北 川 に て 大 一五八
 北 川 に て 大 一五九
 北 川 に て 大 一六〇
 北 川 に て 大 一六一
 北 川 に て 大 一六二
 北 川 に て 大 一六三
 北 川 に て 大 一六四
 北 川 に て 大 一六五
 北 川 に て 大 一六六
 北 川 に て 大 一六七
 北 川 に て 大 一六八
 北 川 に て 大 一六九
 北 川 に て 大 一七〇
 北 川 に て 大 一七一
 北 川 に て 大 一七二
 北 川 に て 大 一七三
 北 川 に て 大 一七四
 北 川 に て 大 一七五
 北 川 に て 大 一七六
 北 川 に て 大 一七七
 北 川 に て 大 一七八
 北 川 に て 大 一七九
 北 川 に て 大 一八〇
 北 川 に て 大 一八一
 北 川 に て 大 一八二
 北 川 に て 大 一八三
 北 川 に て 大 一八四
 北 川 に て 大 一八五
 北 川 に て 大 一八六
 北 川 に て 大 一八七
 北 川 に て 大 一八八
 北 川 に て 大 一八九
 北 川 に て 大 一九〇
 北 川 に て 大 一九一
 北 川 に て 大 一九二
 北 川 に て 大 一九三
 北 川 に て 大 一九四
 北 川 に て 大 一九五
 北 川 に て 大 一九六
 北 川 に て 大 一九七
 北 川 に て 大 一九八
 北 川 に て 大 一九九
 北 川 に て 大 二〇〇

私の好きな言葉 二二、六二、六九、七六、七九、八八

青空をえぐって立っている
その瀟洒たるドームは
崇高なる使命に誇り
その若い瞳を輝かしつつ
連峰を俯瞰している

その熱意
その英気
天かける若鷲の如く
銀河を蔽ひ宇宙を呑んでいる
学者の心臓は
若人の血潮は
幸ある希望に踊って
強く高く鼓動している
その肺肝
その雄哮び
壮なる気力に溢れて
生命の音津をかき鳴らす
大空をえぐってそそり立つドーム
太陽にいどむコロナ観測所

乗鞍山頂にそそり立つコロナ観測所よ
幾度か春がめぐって来ても
風雪にもまれ
厳寒に鍛えた
お前の雄々しい姿を
アルプスの霊峰に
崇く強く刻みつけてくれ

真理に燃える
お前の若い血潮に
生命も奪う氷雪を融かしてくれ
天文学に憧憬する
お前の深い吐息に
荒れ狂う吹雪を沈黙させてくれ

一時しか訪れない春の草花は
氷なす清水に育まれて
お前の栄ある功績の冠を
絢繡たる錦と飾るであろう
地球をまわって
お前の勲功は
勝ち誇った駿馬の如く
電波に鞭うって天かけるであろう

健在なれ
コロナ観測所
天は裂け地の割れようその日まで
光栄に冠たれ
わがコロナ観測所
永遠に
そして永劫に

1970-7-30

